

第1回 小瀬川河川整備アドバイザー会議 議事要旨

日時：令和2年2月19日（水） 10:00～12:00

場所：エスポワールおおたけ 2F 大集会室

1. 規約（案）等について

- ・（委員）規約（案）の（雑則）第9条、「規定」は「規約」ではないか。
→指摘のあった箇所を修正し、設立趣旨、規約（案）、公開規定（案）、傍聴既定（案）について了承をいただいた。

2. 委員長の選出について

- ・委員長として、河原委員が互選された。
- ・内田委員が委員長代理として河原委員長より指名され、各委員より了承された。

3. 小瀬川水系河川整備計画の点検について

- ・（委員）河道内の樹木伐採について、小瀬川は河川延長が短く、川幅も狭いため、河道内の樹木は思い切って伐採した方が良いと思う。
→河道内の樹木については、状況を確認しながら、維持管理の中で適宜伐木を実施している。サイクル型維持管理の中で、樹木の繁茂状況も確認しながら洪水の流下を阻害するような樹木については優先順位を付けて実施することが重要と考えている。実施にあたっては環境面も含めて学識者等と相談しながら進めさせていただきたい。
- ・（委員）河川整備計画どおり順調に進捗しており、平成30年7月の洪水時も被害がなかったということで問題ないと考える。今後、台風が大型化することを考えると、小瀬川はダムがあり河川が短いため、洪水についてはダムを利用してうまくコントロールすることが可能である。一方、河口の高潮対策は急ぐ必要があるのではないか。また、コンビナート側との連携についてはうまくできているのか。
→高潮の堤防高は概ね確保されているが、堤防構造としては脆弱性がみられるため、対策が必要と考えている。企業との連携は重要であり、堤防の高さの整合と構造の質を上げることについて協議しながら進めて参りたいと考えている。
- ・（委員）昨年の多摩川の氾濫時には、排水樋門の操作に行くことができなかったということがあった。風速15mを越えると作業員は現地に行くことができない。水の滞留が発生してポンプ車を派遣する前に、既設のポンプ場を動かせるように対策をとる必要があるのではないか。
→排水計画について装束ポンプ場の例を出したが、浸水シミュレーション上では電気施

設が浸水し、ポンプが停止した最悪の事態を想定したものである。施設自体の耐水化の推進はもちろん重要であると考え。また、地震時の津波も含めて河口部については施設の遠隔操作の推進が進められている。

- ・(委員) コンビナート側の堤防の高さは高いという印象はない。今後、高潮の危険度が高まるということを考えると、被災した際に被害が大きかつ長引く可能性もあるため、企業側への現状周知、協力体制を維持していただきたい。

→引き続き情報共有、協議を進めて参りたい。

- ・(委員) 事前放流について、濁水は多少発生する可能性があるということであり、特別防災操作よりも慎重に実施しなければならない。濁水は、長期間の雨量が関係するため、月別など時期によってルールを変える必要があるのではと思う。そういった検討は実施されているのか。また、特別防災操作は計画規模内の洪水が対象になってくると思うが、事前放流は計画規模あるいは超過洪水も対象になってくるかと思う。河川整備計画や基本方針の治水計画の中で検討できるレベルにあるのかどうか、現状を教えて欲しい。

→異常洪水時防災操作の基準雨量は、実績雨量や過去の予測雨量等を踏まえて設定した251mmとなっている。この閾値において、事前放流としてダムの貯水位をどれだけ下げることができるかであるが、雨量と過去の貯水位の状況をシミュレーションして貯水位が回復できる見込みを前提とした確保容量を設けている。また事前放流は、現時点では治水計画の外という扱いとなっている。昨年度、事前放流の実施要領を策定したが、実績が積み重なっていないため、今後、全国的なダムの有効活用としての事前放流についての議論の状況をふまえて治水計画に入れるかどうかの検討が必要となる。

- ・(委員) 小瀬川ダムをみると、容量の1/3で土砂が堆積し、容量が減っていると感じる。また、弥栄ダムから小瀬川ダムの間の河川沿いの山の状況を見ると、これまでは松が枯れて川に流れ込んでいたが、最近はナラ枯れが発生している。流入土砂、流木の種類分けのチェック・把握が必要ではないかと思う。国交省の管理外なので難しい問題かと思うが、弥栄ダム上流の状況はかなり変わってきているため、ぜひ関心をもっていただきたい。

- ・(委員) 流域の山の状況変化というのは重要な指摘である。大雨が降れば土石流をはじめいろいろなことが起こる。山の管理に立ち入らざるを得ないと思うので、今回の意見を参考にしていきたい。

- ・(委員) 河口から3k付近、この辺りは堤防が昔のままのコンクリートで風化が進行して

いる。また、水辺の楽校の説明版があるが風化し、ほとんど読めない。河川的美観としても問題。

→護岸、看板等の現状施設については、合同巡視で確認し、河川的美観・景観も含めて早期に維持管理が必要なものについては対処していきたい。

・(委員) 両国橋付近は竹林群が多く、広範囲に枯れている。根が浅く危険ではないかと思うが大丈夫なのか。また、防鹿から上流の沿川は、山の傾斜がきつく、崩落すれば国道 186 号が遮断され生活に支障をきたすのではないか。

→両国橋からダムまでの区間については、山付け道路に沿った急斜面があるという状況であり、ひとたび土砂崩れ等が発生すると交通網が遮断される。洪水時は巡視を行っており、落石等の異常があれば関係機関に連絡するなどの措置をとることはできるが、抜本的な崩落防止は国で実施できない。巡視等を活用しながら早期発見について関係機関と協力しながら進めている。

・(委員) 小瀬川には、弥栄ダムの他、小瀬川ダムや渡之瀬ダムがあり、異常豪雨などでダムの連携が大切になってくる。タイムラインの協議会等を立ち上げられているが、いざとなった時に横の繋がりをタイムラインとしてやっていただければと思う。

→小瀬川ダム、渡之瀬ダムの放流状況等については情報提供していただくことになっているが、3 ダムの連携した操作までは至っていない。

→小瀬川は 3 つのダムが支配的である。降雨の予測も含めて X R A I N 等の新しい予測技術等を取り入れながら治水安全度のさらなる向上を推進していければと考えている。

→昨年の台風第 19 号を踏まえ、事前放流について、国管理ダムのみならず県管理や中国電力のダムも含めて検討していくこととなっており、3 ダムで連携・調整しながら検討を進めるものとなっている。

・(委員) 地域連携について、子ども達との水生生物調査を毎年実施されているとのことであり、これまでの成果をまとめられたものがあるのか。河川工事の実施箇所でも調査をされているとのことであり、その成果があれば工事に対する生物への影響や河川の整備後も生物が生息しているといったことを子ども達に知らせることが必要である。環境教育は流域の持続可能な社会を創造することが大きな目的である。コミュニティを活発にすることにもつながる。沿岸域では子どもが海に直接触れることができない。川遊びをしても水や川の怖さを知らないことが多い。川の流れの状態ですべて安全かどうかを判断するなど、気付くことが重要であり、防災にも関わってくると思う。また、堆積土砂を撤去したとのことであるが、どの程度の土砂が出てきてどのように処理されたのか教えて欲しい。

→水生生物調査は毎年実施しているが、とりまとめて公開しているところまでは至って

いない。見える化という面では環境や防災意識向上のきっかけになることから検討させて頂きたい。定期的な環境調査として河川水辺の国勢調査を実施し公表しているが、子ども達に見せて活用することも大切かと考える。河川環境への関心をきっかけに防災へ繋げることも重要であると思っており、弥栄ダムでは出前講座の定期的な開催もさせていただいている。中市堰の土砂については、土量については明確な数値を持ち合わせていないが、大きな石については水辺の楽校等の修景に利用することも有効と考えている。

- ・(委員) 事業再評価をみると高潮対策の効果が高いことを示していると思われる。
- ・(委員) **【進捗点検のまとめ】**小瀬川水系河川整備計画に基づき、河川整備事業が概ね計画的に進捗している。
引き続き同計画に定められた治水に関する河川整備を継続して実施するとともに防災減災の取り組みを推進する必要がある。

以 上